TYPE INDUS

自動車

東光通商

ベトナム工場増強

金属粉末射出成形の車部品 月産3倍120万個

東光通商のベトナム・ハノイ工場。左側の建物が増強した第2工場

【立川】東光通商（東京都八王子市、沖崎金光社長、042・644・8860）は、金属粉末射出成形法（MIM）により自動車部品を製造するベトナム・ハノイ工場を増強する。工場敷地内に第2工場を建設、今月下旬の稼働予定で、総投資額は約5億円。日系自動車メーカー向け部品の需要増から工場拡張が必要と判断した。月産は部品点数ベースで現状比約3倍の120万個になる見通し。2018年5月期にベトナムで売上高6億円を目指す。

11年設立のハノイ工場の敷地面積は約700平方㍍。新設のハノイ第2工場は一階建てで、延べ床面積は約1300平方㍍。稼働に合わせて20人程度を新規に現地採用し、最終的には第1工場の従業員（約60人）と合わせて100人規模にする。

第2工場には第1工場（延べ床面積1000平方㍍）に設置していたマシニングセンター（MC）や射出成形機、測定顕微鏡などの約15台の機器を移設。第1工場は真空熱処理炉の専用工場にする。また新たに、新型の真空熱処理炉を数台導入予定で、金型製造から成形、検査工程までの一貫生産体制を確立する。同工場は現在、日系の自動車・産業機械メーカー向け金属部品やロボットセンサー部品などを製造する。

沖崎社長は「寸法精度ざっと5％以下や量産コストを低減できるといった製法の特徴から、日系メーカーの引き合いが11年比で50％程度増えている」という。生産能力を高め、受注増に対応できる体制を整える。

日刊工業新聞